

四極会 寄附講義「会社研究」令和3年度 第14回目

令和3年7月21日(水) 13時10分

講師 大分みらい信用金庫

理事長 森田 展弘 氏

テーマ 「地域の活性化と求められる人材像」



今回も、経済学部の同窓である森田展弘氏(昭和54年3月卒業 大学第27回)の講義です。

森田講師は、昭和54年4月に入庫、平成30年6月に理事長に就任され現在に至っており、今年で勤続42年になるそうです。

「地域の発展なくして、信用金庫の発展はあり得ない。」

この思いをもとに、地域づくりで求められる人材像などを中心にお話をいただきました。(オンライン講義)

その概要は、次のとおりです。

○大分みらい信用金庫について

- ・創立は大正11年4月12日であり、大分大学経済学部と同様、来年(令和4年)創立100周年を迎える歴史ある金融機関である。

- ・令和3年3月末現在店舗数は30店舗、役職員数は382人、出資金は14億97百万円である。

○信用金庫の特徴

1 協同組織金融機関

「地域で暮らす人々が、お互いに助け合って、自分たちの地域社会のために必要な、自分たちの金融機関を創りたい」そんな思いから生まれた「相互扶助」「非営利」を基本理念とする協同組織の金融機関。会員の出資による協同組織の非営利法人。

2 地域金融機関

地域で集めたお金をその地域の中小企業や地域住民に融資することで地域社会の発展に貢献。

3 中小企業専門金融機関

全国の中小企業構成比は、99.7%。(2020年版中小企業白書・小規模企業白書概要)

信用金庫は、日本経済の基盤となっているこの中小企業を支援しており、いわば、日本経済を支える縁の下の力持ちである。

○地域社会の課題について

人口減少、少子高齢化、人手不足、後継者不足など、地域経済にとって構造的な課題があり、加えて、新型コロナが経済に大きなインパクトをもたらし、観光業、飲食業などは深刻な打撃を受けている。大分県においても、今年2月の宿泊者数は、前年比△63.2%(大分財務事務所調べ)と大きく減少しており、すそ野の広い観光業などにおいて厳しい経営環境となっている。

○お客さまサポート活動

当金庫は、専門家派遣、創業支援、ビジネスマッチング、IoT支援、事業承継など、中小企業の支援に全力で取り組んでいる。また、地域貢献のための活動や、さらには、昨年9月、みらいしんきんSDGs宣言を行い、SDGsへの取り組みも開始した。

○地域づくりで求められる人材像

寄り添い…常日頃からの関係性が大切

- ・相手が何に悩んでいるのか、相手の立場で考えられる人・組織
- ・その人の得意なこと、苦手なこと、好きなこと、嫌いなことなどを理解できる人・組織

連 携

- ・相手の悩みを解決できる手段、ネットワーク、情報を有している人・組織

そして、最後は、**一生懸命**

・広い視点での「地域づくり」においては、地域における人々の信頼関係や結びつき～ソーシャルキャピタル(社会関係資本)～が基盤となる。これを醸成することにより、地域を形成する町内会、企業、住民、行政、教育機関、NPOなどが、産業・環境・生活・福祉・文化芸術・教育といった様々な分野で、地域力を発揮し、地域づくりを実践することができる。

・ソーシャルキャピタルの本質は、地域におけるご縁を大切にすることであり、我々信金は、助け合いの精神や地域のご縁を大切にし、地域に寄り添い、ひいては、地域が発展することを目指している。

・私も学生時代には、いろいろなアルバイトをやってきた。皆さんも大学の勉強だけでなく、外に出て、様々な業種のアルバイトや、NPOなどの自分が興味を持てる組織でいろいろな経験を積んでほしい。そして、地域のリーダーとなれるよう成長してほしい。

○幸せの法則(月刊誌：致知より)

脳科学・ロボット学者の前野隆司氏が、世界中の幸せに関する研究資料と膨大なアンケート結果を合体させ、因子分析という手法で導き出した「誰でもが幸せになれる因子」。

若いうちにこのような考え方を取り入れ、今後の活躍に生かしてほしい。

- 1 やってみよう!因子(自己実現と成長の因子)
- 2 ありがとう!因子(つながりと感謝の因子)
- 3 なんとかなる!因子(前向きと楽観の因子)
- 4 ありのままに!因子(独立と自分らしさの因子)

○おわりに

・私から皆様方に言葉を贈りたい。「**情熱にまさる能力なし**」

・安岡正篤先生は「人に大切なものは知識よりも才能よりも何よりも真剣味であり、純潔な情熱である」との言葉を残しておられる。

・情熱はあらゆることの源泉であり、社会は熱い人材を求めている。

このことを踏まえ、一人ひとり人生を実りあるものにしてください。